

【 2018 年度 事業報告 】

▶総会

2018 年通常総会

【日 時】 2018 年 5 月 20 日(日)

10:00 から 11:00 まで

【場 所】 大阪ボランティア協会

【出席者数】 全正会員数 39 名 うち 出席者数 21 名(うち委任状出席 15 名)

【議案】

第1号議案 2017 年度事業報告及び収支決算報告の件

第2号議案 2018 年度事業計画案及び収支予算案承認の件

第3号議案 役員選任の件

▶理事会

開催状況

2018 年度第 1 回理事会

【日 時】 2018 年 4 月 19 日(木)

【場 所】 大阪市コミュニティ協会 NPO 連携室

【出席者数】 理事 3 名

2018 年度第 2 回理事会

【日 時】 2018 年 5 月 20 日(日) 11:00~12:00 【場 所】 大阪ボランティア協会

【出席者数】 理事 4 名

2018 年度第 3 回理事会

【日 時】 2018 年 10 月 14 日(日)

【場 所】 於 総合生涯学習センター

【出席者数】 理事 3 名

※スタッフ合同会議

理事の方のスケジュール調整が難しく個別の意見徴収に努めた。

▶事務局会議

スタッフミーティング開催状況

2018 年 4/26 於 京橋コムズガーデン 6/10 於 総合生涯学習センター

7/8 於 総合生涯学習センター 8/12 於 総合生涯学習センター

9/9 於 総合生涯学習センター 10/14 於 総合生涯学習センター

11/14 於 総合生涯学習センター 12/19 於 総合生涯学習センター

2019 年 1/13 於 総合生涯学習センター 2/17 於 総合生涯学習センター

▶広報

■事業の概要

支援者、潜在的支援者へアプローチするため、ウェブサイト、SNS の運用、チラシ等を作成し、現地の様子を伝えること、ニランジャンナセワサンガの認知度を高めること、イメージアップを図ることを目的として活動した。

又今期はスタッフ会議の開催場所として活動の場としている大阪市総合生涯学習センターのネットワークサロンを開催、広く市民の方に当法人のPRを実施した。テーマはインドバーチャルツアーとしてインド現地でインターンとして活動している明治大学の豊津君のオリヒメロボットを活用して現地状況を伝えるイベントとした。またインドの状況については山本副理事長より説明を行った。

■2018年度の実績と成果

<実績と成果>

(1)対象者:潜在支援者

①ウェブサイト

団体の活動内容などがより伝わりやすいものになるよう、ホームページにプラスしてフェイスブック活用での情報発信に努めた。

②Niranjana Letter の発行 ・15周年特別号 ・2019年冬号

<課題>

・ホームページの適時更新

▶支援者サービス

■事業の概要

今年度、支援者及び協力者へ、ニュースレターと合わせ子ども達の手作りカードを送った。現地の状況を知ってもらうことは勿論、子ども達との交流を楽しんでもらった。

■2018年度の実績と成果

<実績と成果>

(1)現地からのクリスマスカード発送

12月に児童が支援者に対しクリスマスカードを約200枚作成し、支援者のもとに郵送した。

▶スタディツアー事業

■事業の概要

インド・ビハール州ニランジャンナスクールでの授業ボランティアや、近隣の村への訪問などを通し現地の住民たちと触れ合うことで、参加者の見聞を広めるとともに、現地での様々な体験を通じて、児童やスタッフと国境を越えた関係性を築くことを目的としたプログラムである。

■2018年度の実績と成果

(1)夏のスタディープログラム及び春のツアーともに募集人員が集まらず中止

<反省>

2016年8月25日～9月9日の実施(3名参加)を最後に開催ができていない。

夏、春ともに計画を作りマイチケット主催の合同説明会にも参加し何人かの見込みはあるものの最終の申し込みに至らず。主催者の中に同世代(学生)のメンバーが必要と感じる。

▶イベント事業

■事業の概要

様々なイベントへの参加及びブース出展を通し、広く活動のPRを行う。

■2018年度の実績と成果

<実績と成果>

2018年度は、下記イベントに参加、あるいはイベントを主催した。NPO 法人の活動について知ってもらいいい機会になった。

2018年5月5日 地球愛祭り京都 出展

2019年2月2日～3日 ワンワールドフェスタに出展

2年ぶりの参加であったがシニア層に対するアピールが出来た。

▶ 研修・セミナーの開催と参加

①大阪市総合生涯学習センターネットワークサロン

日時 2018年12月1日(日)

内容 インディハール州の状況や教育事情のセミナー

参加者 15名

②マイチケット主催のスタディーツアーセイフティーシュミレーション会議

日時 2018年6月21日(木)

▶ 日本国内に於ける、その他の活動

①Gochisou net 大阪を中心にレストランでの食事を通して寄付が集まる仕組みのサイトにエントリーする。

②アジア協会未来塾参加

③Nikko(京都のNPO)のビハール州へのN連プロジェクトの情報収集

④マイチケットの合同説明会参加

⑤土居誠君(広島大学大学院生)のフィールドワークの協力

⑥マルガユニティー(支援者)20周年式典参加

⑦システム担当 フレディーが結婚、結婚式に参列

⑧ファンレイジングセミナーに参加

⑨ストリートチルドレン芸術祭 2019年チャリティーカレンダーにニランジャンナの子どもの絵画を出展。

インド①▶学校教育

■事業の概要

現地パートナー団体トラストと連携を取り合いながら、貧困地域において学校教育を提供している。学力向上及び自立支援授業、教科書配布、制服支給、給食配給(週2日)の実施。

2003年よりブッダガヤ周辺の17の村々の最貧困層の子どもたちを対象に、学校教育を支援しており、これまでに15年間、年間約500名の子どもたちに、無償支援。授業料が払えない、制服や教科書を買うことができない子どもたちのために支援を行う。

地域の教育レベルの底上げに力を入れていくと同時に、経済的貧困が理由で進学・就職ができないという子どもたちを支援するために、義務教育の期間を終えるまで、学校教育を提供している。

教育面で特に力を入れているのが、英語、一般教養、そして国際交流である。世界情勢を幅広くとらえ、国境を越えた視野を持つことができるよう、ボランティアを受け入れ、授業やワークショップに積極的に参加することで実践的なコミュニケーション能力を培う。学校には、ヒンドゥー教、イスラム教、仏教、シーク教などさまざま宗教背景を持つ子どもたちが一同に学んでおり、すべてのカーストの子どもたちが分け隔てなく一緒に机を並べる。

■2018年度の成果:

- ・「私たちの学校」という意識啓発のため、学校や教室の掃除運動を実施。
- ・運営自立を目標にし、学費を支払える家庭からは低額の学費を納めてもらい保護者たちへ学校運営への協力を呼び掛けた。
- ・7年生を対象に卒業遠足を実施。
- ・朝の挨拶運動の継続実施。

教科:英語、数学、ヒンディー語、サンスクリット語、科学、一般環境学、社会、

クラス:ナーサリー・プレナーサリー・LKG・クラス 1-7

シニアクラス(クラス 8-10 中学校 2~3 年生・高校 1 年生)(本校のみ)

コンピュータークラス (本校生徒並びに地域の 15 歳以上の若者が対象)

2019 年 3 月末現在、生徒数は

Niranjana school	342 名
Beam school	163 名
合計	505 名

インド②▶孤児院(ドミトリー)

■事業の概要

2006 年より始まったこのプロジェクトは、親が不在、養育が困難などの理由により、家庭での養育が不可能である男児を保護し、孤児院(ドミトリー)で生活支援を行っている。勉強、日常生活、リクリエーションのバランスのとれた日常を提供し社会に必要な知識と経験を身に付けることにより、孤児院卒業後、すみやかに自立できるよう支援を行っている。

■2018年度の状況:

2015 年に 15 名の孤児を収容するも卒業して自立していき、現在 9 名の孤児を収容。

インド③▶スジャータ・アシュラム(女性センター)

■事業の概要

女性の地位の向上に向け、女性が技術を身につけ経済的な収入を得ることだけでなく、日頃、自分や家族が着る洋服を作れるようになることで、家庭の中でも自信や誇りを持ち、強く生きていけるようにと始まったプロジェクト。2011 年にスジャータ・アシュラムが完成。活動期間は 7 年。

裁縫教室、メヘンディ教室、ペイント教室、識字教室を実施。チームピース協力の元、裁縫の基礎技術の指導を行った。

インド④▶植林・有機農業

■事業の概要

乾燥・干ばつ被害が広がるビハール州南部に林や森を取り戻し、生物多様性を回復させるとともに地球温暖化を防止する。また、植林と有機農業の混合実績によりアグロフォレストリー(森をつくる農業)のモデルケース

となることを目的としたプロジェクト。開始から7年がたち、マンゴーが実るようになり、その他の木々も順調に育ってきている。植林地を動物侵入による被害から守るため、ブロック塀の建設を進めた。有機農業の畑にて、土作りと耕作を実施した。

■2018年度の実績と成果

- ・マンゴーとグアバの収穫量が順調増加。
- ・植林・有機農業の混合実践を行うことにより、有機物の有効利用に工夫をこらした。ミミズを投入したコンポスト堆肥づくりに関しては、ミミズが定着せず上手くいかないこともあった。堆肥作りは今後の課題となっている。
- ・泥棒や家畜の侵入を防ぐため、レンガ塀の追加建設を行った。
- ・有機野菜の収穫にも成功。学校給食や孤児院の食事提供にも利用した。

(※東洋ゴム工業(株)の助成金により実施)